

災害支援協定を締結 災害時に電動車両を貸与

宮城三菱自動車販売(千田茂穂代表取締役社長)と本市の「災害時等における電動車両および給電装置の貸与に関する協力協定」締結式が3月17日、登米市役所で開催されました。

本協定は、自然災害や大規模停電などが発生した際に、電動車両および給電装置の貸与を受けることで、発電設備のない避難所や災害対応現場などにおける電源確保、人や物資の輸送に役立てるものです。締結式で千田社長は「広範囲で長期間にわたる災害が発生した際、電動車両の貸与により市民の皆さんに少しでも安心していただきたい」と述べました。



協定式の後には、屋外で電動車両および給電装置を活用したデモンストレーションが披露されました。

小学生がポップ制作 イラストで上杉文庫紹介

「本のポップ創作コンクール入賞作品の展示」が3月3から15日までイオンタウン佐沼で、16から31日まで追図書館で実施されました。

市では、市内の小中学校に「上杉文庫」を設置し、図書に充実を努めています。ポップ創作コンクールは、上杉文庫の図書を紹介するポップを市内の小中学校から募集。5回目となる今回は587点の応募があり、19作品が入賞しました。来場した千葉暖空さん(13)＝南方町柳沢＝は「図書を分かりやすく絵と文章で表現していて、その図書を読んでみたくくなりました。小学生の時にポップを作ったことを思い出しました」と話していました。



独自の視点で描かれたイラストや文章など魅力溢れる表現のポップが来場者たちを楽しませました。

古民具で近代を回顧 学芸員が展示の品を解説

企画展「冬の道具春の道具」の展示解説は3月25日、市歴史博物館で開かれ、学芸員が展示品や当時の生活様式などについて説明しました。

企画展は、まだ電化製品が貴重だった時代に市内などで使用されていた暖房具を中心に、民具やそりなどを展示。当時の暮らしを思いながら世代間の交流につなげることを目的に5月7日まで開かれています。来館者は「明治期から昭和初期ごろに使用されていた古民具が好きで来館しました。貴重な長火鉢などの展示に目を引かれました。これからも企画展示を楽しみにしています」と話していました。



歴史博物館の学芸員が展示品などを丁寧に説明。来館者は解説を聞きながら当時の生活に思いをはせました。

絵本の楽しさ届ける 読み聞かせの技術を向上

「読み聞かせ研修会」は3月5、19の両日、中田生涯学習センターで開かれ、市内の読み聞かせボランティアや学校司書、学生など36人が参加しました。

研修は、読み語り塾「やまがっこう」代表の鶴飼信好氏を講師に迎え、絵本の読み方や選び方、ボランティアの役割や活動の広げ方などについての講話を実施。受講者の菅原喜美子さん(66)＝東和町米谷2区＝は「こども園で読み聞かせボランティアをしているので受講しました。立ち姿や本の持ち方など、今まで気付かなかったことを今後の活動に生かしていきたい」と話していました。



読み聞かせの実演を交えた講話に、受講者の皆さんは真剣に耳を傾けていました。

ゲームでつながる輪 北方地区で世代間交流会

「eスポーツ世代間ゲーム交流会」(北方公民館主催)が3月25日、北方公民館で開かれました。

eスポーツは、コンピューターゲームなどを使って年齢や性別に関係なく、多くの人に参加できる競技。さまざまなイベントの開催やeスポーツの普及活動をしている「登米e-sports」(浅井洋幸代表)の協力により開催された交流会には、多くの地域住民が訪れゲームを通じて世代間交流をしました。参加した佐藤武里さん(37)、洗太さん(4)親子＝追町舟橋＝は「家で遊ぶのと違って、たくさんの人が集まってわいわいにぎわう雰囲気楽しかった」と笑顔を見せていました。



同日行われた子ども会の手作り教室やゲートボール大会の参加者も自由に入出りし、会場は大盛況でした。

貴重な自然を再認識 生物多様性の向上を目指す

「第11回人と野生動植物の共生を考えるつどい」は3月12日、豊里公民館で開かれ、市内外から約100人が参加しました。

講演は、自然環境を守り将来にわたって保全していくことを考えるきっかけとするため企画。長年ガン類やその生息地の保全などの活動をしている呉地正行氏と、テレビなどでおなじみの気象予報士、大和田彩可氏を講師に迎え、2部構成で行われました。千田脩矢さん(11)＝石越町第四＝は「自然の大切さがよく分かった。これからは節電や自分ができることに積極的に取り組んでいきたい」と話していました。



参加者はうなずいたりメモを取ったりしながら真剣なまなざしで聴講。本市の貴重な自然環境を見つめ直す機会になりました。